

2015 SUPER GT
LM-corsa・OTG Race Report
第6戦 スポーツランド菅生

◆ 9月20日(日) <決勝> 天候:晴れ | コース状況:ドライ

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹
22位 / 72周 / 1時間 51分 54秒 616



抜けるような青空が目にも痛いほどの好天に恵まれた9月20日、杜の都、仙台市郊外の村田町にあるスポーツランド菅生を舞台に、2015年 AUTOBACS SUPER GTのシリーズ第6戦、SUGO GT 300kmの決勝レースが行われた。昨年使用したBMW Z4に替えて、新たに開発が進むLEXUS RC F GT3にマシンを変更したLMcorsaチーム。マシン開発は想像していた以上にハードなプロジェクトとなり、完走することもままならないレースが続いた時期もあった。だが前回、8月末に行われたシリーズでも屈指の長距離レースである鈴鹿1000kmを完走した#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、セーフティカーが導入され、

ほぼ全車が一斉にルーティンのピットインを行う、文字通りのタフなレースとなった菅生300kmでも無事完走。マシン開発においてさらに、大きな一歩を踏み出すことになった。

朝一番のフリー走行で#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は1分21秒623をマーク。これはクラス15番手でトップからもコンマ8秒差と、先ずは好調な、この日の走りだしとなった。タイムだけでなくマシンのフィーリングも上々で、決勝に向けて期待が高まって行った。

その決勝レースは午後2時にスタートした。吉本大樹がスタートを担当した#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、ポジションをキープしたままオープニングラップを終えると、クラス14~16位近辺をキープ。まずまずのペースで安定した周回を続けることになった。4周目には、僚友のBMW Z4に先行するなど、先ずは順調な序盤戦を戦っている。レースの3分の1を終えた辺りでGT500マシンがバックストレートでクラッシュ、それを回収するためにセーフティカーが導入されることになった。ルーティンのピットインを、このタイミングで行うのはレースの定法。ピットロードの入口が解放されると同時に吉本はピットインしてきた。

ところがライバルも同じ考えだったようで、ほぼ全車が一斉にピットインすることになり、ピットは慌ただしい戦場と化してしまった。もちろんチームでは完璧なピットワークを展開し、タイヤ交換にガソリン補給、そして吉本から飯田章に交替した#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、素早くピットを後にしたが、ピットエンドで渋滞に巻き込まれてしまい大きくタイムロス。結果的に、ここでほぼ最後尾までポジションダウンしてしまったのだ。

しかしそこからはベテランの真骨頂。後半のスタントを担当した飯田は、粘り強く周回を続けていく。残念ながら、まだまだ発展途上の#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、ライバルに比べて“速さ”が足りないのはいたしかたないところ。それでもファンとチームからの応援をパワーに替えて飯田は最後まで走りきることになった。22位完走。数字で表すなら、これがシリーズ第6戦の総てだが、数字には表せない収穫ももちろんあった。前回の鈴鹿1000kmに続いて、今回の菅生300kmも完走したことで多くの有効なデータが蓄積されたのだ。

次戦は 6 週間後のオートポリス。アップダウンが大きい、ある意味菅生にも似たキャラクターのサーキットだけに、今回のデータを活かして是非とも完走し、最終戦、そして来シーズンに繋がるレースとしたいところだ。

ドライバー／飯田 章

「鈴鹿の 1000km に続いて、今回の 300km レースも、大きなトラブルとは無縁で、無事に完走することができました。前回の鈴鹿もそうでしたが、完走できたのはドライバーだけでなくチームが一丸となってきた証拠。それもレースの現場だけじゃなく、ガレージでクルマを仕上げる段階から、チーム全員が精一杯頑張ってくれたおかげだと思っています。長丁場の 1000km と、今回のタフな 300km。違ったタイプの 2 つのレースを走りきったことで、さらに大きなデータを蓄積できたと思います。次回のオートポリスもチーム一丸となって、さらに上位を狙って行きたいですね」



ドライバー／吉本大樹

「大変タフなレースになりましたが、完走で来て良かったです。本当は、もう少し“速さ”が欲しいというのが正直なところですが、クルマはまだまだ発展途上。苦しいけれども着実に進化を続けています。そのためにも、今日完走できたのは大きかったと思います。次回のオートポリスでも、先ずはちゃんと完走して、次に繋がるレースにしたい。そう思っています。今日はお連れさまでした」

監督／小林敬一

「前回の 1000km に続いて、今回も大きなトラブルとは無縁でタフなレースを走りきることができました。ドライバーはもちろん、チームのスタッフ全員が頑張ってくれたおかげです。今回のデータも、もちろんクルマの開発にはとても有効だと思っています。新しいマシンの開発はやはり大変ですが、それでも改善を続けていけば、一歩ずつでも進化し続けられれば…。そんな気持ちでこれからもがんばって行きたい。そう思っています。これからも応援をよろしくお願いします」

